



総務省 総合通信基盤局 電波部 電波環境課 電磁障害係長

柴田 由里

Yuri Shibata

平成 24年 4月 総務省採用
同 総合通信基盤局電気通信事業部
電気通信技術システム課
併任 同課(安全・信頼性対策室)

平成 26年 8月 外務省総合外交政策局安全保障政策課宇宙室
併任 経済局政策課
(インフラ海外展開推進室)

平成 27年 9月 外務省総合外交政策局安全保障政策課宇宙室
併任 経済局政策課(官民連携推進室)

平成 28年 7月 現職

国民生活を支える仕事から 日本の国益を考える仕事まで

電子レンジなどの機器を 安全に使用するための取組

電子レンジやIH調理器などの電気機器からは電波が漏れ出ており、この漏れ電波がWi-Fiやテレビなどの無線通信・放送に悪影響を与えることのないよう、これらの電気機器を「高周波利用設備」として技術基準を定めています。

この制度は、国際・国内の場で議論されています。国際的な議論は、年1回開催される国際無線障害特別委員会(CISPR)で行われています。国内の電気機器メーカーや無線通信関係者の意見を踏まえ、日本の国益にかなう対処方針を固めた上で、会議に臨んでいます。CISPRにおいて国際規格が作成された際には、国内において、国内制度に取り入れるべき規定、国内特有の状況に鑑み取り入れるべきでない規定を議論した上で、国際規格に配慮しつつ国内状況に対応した国内制度を作成しています。

あまり一般には知られていない取組ですが、様々な便利な家電製品が出現する昨今において、それらの電気機器が、携帯電話やテレビなどの無線通信・放送に悪影響を与えることなく安全に使用できる、そのような「当たり前」の生活を支える一端を担えるところに、この仕事のやりがいを感じています。

また、携帯電話をかざすことにより支払いができるシステムも「高周波利用設備」のうちの一つです。スマートフォンの「総務省指定」の刻印(技術基

準を満たすことを示すマーク)が話題になったことがありましたが、その後の制度改正により、マークのディスプレイ表示が可能となりました。

この制度改正においては、改正案作成を任せいただき、所定の手続きを経て無事に公布・施行され、実際に本体に刻印のないスマートフォンを目にしたときは、達成感がありました。

外務省への出向

現在の部署の前は、外務省に2年間出向し、宇宙国際協力の推進に携わり、国連の関連会議や多国間・二国間会議を担当しました。

最も印象深かったのは、日仏包括的宇宙対話の立ち上げをゼロから経験できたことです。議題や開催場所など何も決まっていない状態から、仏の国防省・外務省・宇宙機関の担当者や国内の関係省庁と意見交換を行い、具体的な議題のアイデア出しから始めて、日本政府としての対処方針を取りまとめ、実際にパリで第1回を開催することができたときは、大きな達成感を得ることができました。

若手のうちから、国連の場における日本代表としての立場表明や国際会議の立ち上げなど、貴重な経験を得ることができました。

総務省での仕事の魅力

行政の仕事には、私たちの生活が成り立っている仕組みに直に関わり、様々な立場の方々と関わりながら、その仕組みを自ら形作ることのできる魅力があります。また、若手のうちから、様々な部署

や出向を経験し、国内制度の設計や国際会議における日本代表などの重要な役割を任せられ、成長の機会を得ることができました。もしあなたがそのような仕事に興味があれば、総務省を訪問してみてください。皆さんのお越しをお待ちしています。



国際会議にて



休日は夫と山でリフレッシュ



在サンフランシスコ日本国総領事館 領事

加藤 彰浩

Akihiro Kato

平成 20年 4月 総務省採用
同 情報通信政策局技術政策課

平成 20年 7月 同 情報通信国際戦略局技術政策課

平成 22年 7月 同 大臣官房総務課

平成 23年 7月 同 総合通信基盤局電波部移動通信システム開発係長

平成 25年 7月 同 情報通信国際戦略局情報通信政策課政策係長

平成 26年 8月 同 行政管理局行政情報システム企画課情報システム管理室課長補佐

平成 28年 6月 現職

シリコンバレーからのメッセージ

突然ですが皆さんに質問です。

「最近、何か失敗しましたか?」

失敗していないと答えた方は、何かにチャレンジしていると胸を張って言えますか?

世界を変えるイノベーションを生み出し続けるここシリコンバレーでは、起業家にとって失敗(mistake)はリスクをとって果敢にチャレンジした証であり、逆に全く失敗をしていない人はチャレンジしない人物と見なされ、投資を受けにくくなります。シリコンバレーへの人材供給源となっている当地スタンフォード大学では、冒頭の質問をすると半分以上の学生が手を挙げるとも聞きます。

申し遅れましたが、私は今総務省から外務省へ出向し、在サンフランシスコ日本国総領事館で勤務しています。総領事館では経済担当のセクションに配置され、シリコンバレーにおける経済動向調査や当地日系企業支援などの業務を行っております。

海外勤務の経験は、これまで自分が培ってきた価値観を根底から覆してくれるとともに、日本という国を外から冷静に見つめる機会を与えてくれます。またシリコンバレーという土地柄、新たなサービ

スやテクノロジーなど刺激に満ち溢れており、飽きることのない日々を送っています。自分がこの地から何を学び取り、日本にどう還元できるか、時には失敗しながら、果敢にチャレンジを試みています。

冒頭で私は、シリコンバレーでは失敗が奨励されると書きましたが、絶対にやってはいけない失敗があります。それはリスクを恐れ、何も行動せず、チャンスかもしれない機会(opportunity)をみすみす逃すことです。このパンフレットを読んでいるあなたが、総務省の仕事に少しでも興味が湧くようであれば、まずは何かしらの形で門を叩いてみることをお勧めします!



福田元総理とGoogle本社訪問

分野の壁を越えて、地域を元気に

私が現在勤務する福島県会津若松市は、「スマートシティ」分野における先進地の一つとして、他の自治体や企業等から広く知られています。私の所属する企画調整課は市の政策部門であり、その中で私は地方創生に関する事業の企画や国とのパイプ役、スマートシティに関する取組の対外的な発信等を行っています。

スマートシティ担当として扱う分野は医療や教育、観光、防災、エネルギーに都市計画など実に幅広く、総務省の外に身を置いたことで、情報通信とは分野横断的に活用しうる「手段」であり、アイデアや切り口によってどんなことにも携わることができるのだということを改めて認識しました。

これまで縁もゆかりもなかった同市へ出向してからというもの、人や地名を知ることから始まり、歴史的背景や地場産業、自然環境に文化等、仕事の所掌に関わらず日常生活の中で覚え、学んでいくことは無限にあります。だからこそ、周囲にいる地元のプロ、経験豊かな先輩たちの知恵と力を最大限借りることが、仕事を進める上では大切だと考えています。また、市の職員には国とはまた

違った、かなり特化した専門性を持つ方も多く、非常に刺激になります。

総務省には、ICTに関わる幅広いフィールドで自ら考え提案できる場があります。そして、国家公務員、地方公務員、民間企業…と就職先の選択に迷っている方もいると思いますが、国家公務員のキャリアの中での出向というケースについても想像してみることで、自身のやりたいことが見えてくることもあるのではないかと思います。



会津大学フォーラムでの講演の様子



会津若松市 企画政策部 企画調整課 主幹
(スマートシティ推進担当)

山崎 彬美

Akimi Yamazaki

平成 26年 4月 総務省採用
同 総合通信基盤局電波部衛星移動通信課

平成 27年 8月 同 情報通信国際戦略局国際協力課国際展開支援室

平成 29年 7月 現職